

教科	科目	授業時数	対象学年
国語	国語	5	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	<p>本文全体の構造を踏まえ、作者の主張をとらえることができる。</p> <p>本文全体の展開をつかみ、自然描写や人物の言動などから心情をとらえることができる。</p> <p>自分の考えを正確に伝えることができる。</p> <p>古典文法の用言を体系的に整理したうえで、助動詞・助詞を理解し、古文を正確に読解する力を身につける。</p> <p>漢文の基礎を身につけ、書き下し文を正しくかけるようにする。</p>
目標を達成するための留意点	<p>授業を大切にすることを基本とし、必要な物を準備し、主体的に授業に参加する姿勢を付ける。授業中は、教師の説明や指示を注意深く聞き、またグループ学習において、他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることが出来る力を身に着ける。ノートは板書や教師の説明等を、丁寧な字で確実に書くようにし、復習時に要点が理解できるものを作る。</p> <p>家庭学習において、授業時に出された課題等に丁寧取り組み、復習をする習慣を身に着ける</p>
使用教科書	『国語3』（光村図書） 『新しい書写一・二・三年』（東京書籍）
使用副教材	<p>『中学実力練成テキスト 国語3年』（文理） 『常用漢字クリア』（尚文出版）</p> <p>『はじめての評論文20選』（明治書院） 『新国語便覧』（第一学習社）</p> <p>『やさしく詳しい古典文法』（尚文出版）</p> <p>『明説漢文』（尚文出版）</p> <p>『力をつける古文』（数研出版）</p>
評価基準	小テスト及び中間・期末テスト・提出物・授業態度などを総合的に判断して評価する。
学習内容	<p>原語知識 ・ 常用漢字・同音異字・同音異義語の習得</p> <p>・ 抽象概念語句に馴れる</p> <p>説明文・論説文</p> <p>・ 文章構成をとらえ、意味段落ごとの要約ができる。</p> <p>・ 要約した内容から、要旨をまとめることができる。</p> <p>詩歌・文学的文章</p> <p>・ 登場人物の人物像をとらえることができる。</p> <p>・ 自然描写や場面展開に気付き、その意味を考えることができる。</p> <p>・ 登場人物相互の関係をとらえ、登場人物の心情をとらえる。</p> <p>・ 文章を読んだ感想や思いを、文章で正確に伝えることができる。</p> <p>・ 中世から中古の説話文・物語文・和歌の読解</p> <p>・ 文法の習得・活用して文章を読解する。</p> <p>・ 古今異義語の理解</p> <p>・ 音読・暗証</p> <p>○説話文などを導入教材として、古文の文章を本格的に読解していく。その上で、古今異義語の理解を深め、語句の知識を増やす。</p> <p>また、古文の基礎となるのは音読・暗唱であるという認識を持ち、リズム感をもち文章を読解するためにも音読・暗唱を心がける。</p>

教科	科目	単位数	対象学年
社会	公民	3	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、倭が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
目標を達成するための留意点	知識に偏りすぎた指導にならないように、基本的な事項・事柄を厳選して指導内容を構成していく。生徒の主体的な学習を促し、課題を解決する能力を一層培うため、各分野において、適切な課題を設けて行う学習の充実を図る。社会的事象の特色や事象間の関連を説明する学習を通して、言語活動の充実を図る。資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的、体験的な学習の充実を図る。その際、情報モラルの指導にも配慮する。教育基本法第14条及び第15条の規定に基づき、政治及び宗教に関する教育を行う。
使用教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい社会 歴史（東京書籍） ・新しい社会 公民（東京書籍）
使用副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・つながる歴史（浜島書店） ・基礎をきづく歴史③ 東京書籍版（浜島書店） ・新しい公民（浜島書店） ・基礎をきづく公民 東京書籍版（浜島書店）
評価基準	知識・理解／思考力・判断力・表現力／主体的に学習に取り組む態度 それぞれの項目に関して、授業・定期考査・課題等を通して総合的に評価する。
学習内容	<p>【 歴 史 】</p> <p>第7章 現代の日本と世界</p> <p>1節 戦後日本の発展と国際社会 2節 新たな時代の日本と世界</p> <p>【 公 民 】</p> <p>第1章 現代社会と私たちの生活</p> <p>1節 現代社会の特色と私たち 2節 私たちの生活と文化</p> <p>3節 現代社会の見方や考え方</p> <p>第2章 個人の尊重と日本国憲法</p> <p>1節 人権と日本国憲法 2節 人権と共生社会 3節 これからの人権保障</p> <p>第3章 現代の民主政治と社会</p> <p>1節 現代の民主政治 2節 国の政治の仕組み 3節 地方自治と私たち</p> <p>第4章 私たちの暮らしと経済</p> <p>1節 消費生活と市場経済 2節 生産と労働 3節 価格の働きと金融</p> <p>4節 政府の役割と国民の福祉 5節 これからの経済と社会</p> <p>第5章 地球社会と私たち</p> <p>1節 国際社会の仕組み 2節 さまざまな国際問題</p> <p>3節 これからの地球社会と日本</p> <p>終 章 より良い社会を目指して</p>

教科	科目	単位数	対象学年
数学	数学①+数学 I	3(1+2)	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・下記学習内容を理解させ、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。年度初めは、高校数学の十分な理解のために、中学校までの総復習を行う。 ・学力推移調査で偏差値 55 以上が取れる習熟度をを目指す。
目標達成のための留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校数学の基礎となる数式計算・処理の技能の習熟を徹底すること。 ・論理力、数学的な表現力の育成を目指すこと。
教科書	これからの数学3(数研出版), 数学 I(数研出版)
副教材	体系数学 I 代数編, 体系問題集 I 代数編 体系数学 II 代数編, 体系数学問題集 II 代数編 (数研出版) サクシード 数学 I +A, 完成ノート(数研出版)
評価方法	定期考査, 小テスト, 提出課題などで知識・技能・活用力の到達度を問う。また, 課題やノートなどの提出物及び授業態度における自主性・主体性なども考慮し, 総合的に評価する。
授業内容	<p>〔数学①〕 中学校の総復習 教科書・副教材の問題を中心に総復習を行う。ときに、発展問題も扱い、高校数学につながるような授業を行う。</p> <p>〔数学 I〕 第1章 数と式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数と式の基本的な計算を学び、見通しをもって式を扱えるようにする。 ・数を実数まで拡張し、数の体系について理解を深める。また、1 次不等式の解法を学び、解の意味について理解を深める。 ・論理的な思考力を伸ばし、それらを命題などの考察に生かす。背理法を用いた証明について学ぶ。 <p>第2章 集合と命題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学での「集合」の考え方について理解し、式で表現できるようにする。 ・「命題」「条件」とは何かを理解し、真偽について論理的に考えることができるようにする。 ・背理法について理解し、活用できるようにする。 <p>第3章 2 次関数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関数の概念を定着させ、2 次関数についてグラフを用いて理解を深める。 ・2次関数の値の変化を考察し、関数の最大値・最小値を求められるようにする。 ・2次方程式, 2次不等式の解の意味を2次関数のグラフを用いて理解し, 2次不等式の解法を学ぶ。

教科	科目	単位数	対象学年
理科	理科①	2	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	物理への関心意欲を高め、基本事項をよく理解し、物理的なものの見方や考え方を身に付ける。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく、能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「考える物理基礎」(啓林館)
使用副教材	「センサー物理基礎」(啓林館)
評価基準	・定期試験 ・課題の提出 ・実験レポート ・授業への意欲により総合的に判断する。
学習内容	物体の運動とエネルギー ・物体の運動 ・力と運動 ・仕事とエネルギー

2. 指導計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運動とエネルギー	物体の運動	■	■	■									
	力と運動			■	■	■	■	■	■				
	仕事とエネルギー								■	■	■	■	■
				1 学期 中間 検査	1 学期 期末 検査				2 学期 中間 検査	2 学期 期末 検査			学 年 末 考 査

教科	科目	単位数	対象学年
理科	理科②	2	3年

1. 学習の到達目標等

到達目標	1. 化学が物質を対象とする学問であることや、人間生活に果たしている役割を理解する。 2. 原子の構造と電子配置を理解する。 3. 物質量を学び、化学反応の量的関係を理解する。
目標を達成するための留意点	受動的な姿勢で教えを待つのではなく、能動的に理解しようとする姿勢を意識させる。
使用教科書	「化学基礎」(東京書籍)
使用副教材	「セミナー化学基礎+化学」(第一学習社) 「フォトサイエンス 化学図録」(数研出版)
評価基準	*主体的に学習に取り組む態度 *思考・判断・表現 *知識・技能 の3つの観点をもとに総合的に評価する。
学習内容	序 編 科学と人間生活 第1編 1章：物質の探求 2章：原子の構造と元素の周期表 3章：化学結合 第2編；物質の変化 1章：物質量と化学反応式 2章：酸と塩基

2. 指導計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
化学と人間生活	化学とは何か			1	1				2	2			
	物質の成分と構成元素			1	1				2	2			学
物質の構成	原子の構造と元素の周期表				1				2	2			年
	化学結合				1				2	2			末
物質の変化	物質量と化学反応式			中	末								考
	酸と塩基			間	考								査
	酸化還元反応			考	査								

